

2. 事業の概要

(1) 平成 27 年度の事業内容

① 大学院サテライトの検討

(A) 平成 28 年 9 月から、高度な知識を持つ医療情報技術者や上級医療情報技師資格を目指す方を対象に名古屋サテライトキャンパスを開設します。

(B) 東京サテライトキャンパス（平成 21 年開設）では、平成 28 年度から放射線治療学分野において新たに「医学物理士認定試験」の支援を目的とした演習を開始します。

② 教育改革の推進

本学では、すべての学部・学科の 1 年生を白子キャンパスに集結させ、学科の垣根を越えて基礎教育を行う本学ならではの「医療人底力教育」を実践しています。

入学時には、学生ひとりひとりの状況を正確に把握するために、高校までで学習する基礎学力の調査（基礎学力調査）や、学生生活や悩み事などの総合的な意識調査を測ることを目的とした調査（学生意識調査）を実施しています。これにより、基礎学力を学科が求める水準まで引き上げる学習補助プログラム（リメディアル教育）や、教職員による学生の日常生活や学習面のサポート体制の整備などが行われており、「医療人底力教育」の更なる効果的な実践を目指しています。

③ 自己点検・評価の推進

平成 16 年 4 月からすべての大学は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備等の総合的な状況に関し、政令で定める 7 年以内に一度、文部科学大臣が認証する認証評価機関の実施する認証評価を受けることが義務付けられています。

本学では、平成 28 年 3 月 8 日付けで、「公益財団法人日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合している。」と認定されました。

本学が自己点検・評価を実施した報告書（自己点検評価書）及び、公益財団法人日本高等教育評価機構の認証評価の結果に関する報告書（評価報告書）は、本学のホームページで公開をしています。

（公開されているホームページの URL）<http://www.suzuka-u.ac.jp/jikohyoka/index.html>

※ 評価報告書は、公益財団法人日本高等教育評価機構のホームページでも公開されています。

④ 施設の改修及び教育環境等の改善

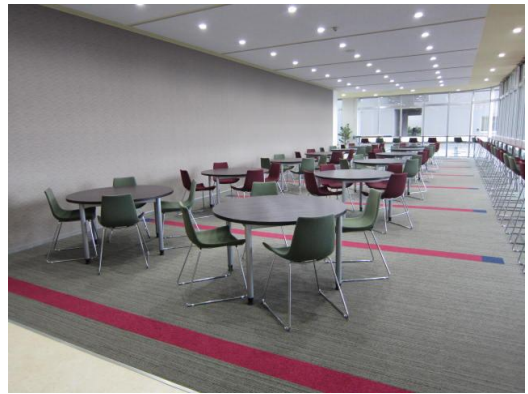
(A) 千代崎キャンパスの施設改修

充実した学生生活を過ごせるように、千代崎キャンパスでは、学生食堂・A講義棟のトイレの改修や実験実習棟のエレベーター更新工事など、施設のリニューアルを実施しました。

改修を行った学生食堂や研究厚生棟 1 階の学生ホールでは、学習や憩いの場として、多くの学生が利用しております。



(千代崎キャンパス 学生食堂)



(研究厚生棟1階 学生ホール)

(B) 学内バリアフリー化の推進

千代崎・白子の両キャンパス内の段差解消や自動扉の設置、水路渡り栈橋の転落防止用手摺の設置などのキャンパス内の安全面に配慮をしたバリアフリー整備工事を実施しました。なお、当該事業は、文部科学省の防災機能等強化緊急特別推進事業の補助金の交付を受けています。

(C) その他の施設設備の更新

前述の学内バリアフリー整備工事のほかに、補助金の交付を受けた施設設備の更新は下記の通りです。

・「職種横断的教育によるチーム医療を担う人材育成のためのICT活用基盤の構築」

対 象：千代崎・白子の両キャンパス

目 的：マルチメディア教室やLAN環境（SUMS Integrate Cooperative System）の整備

補助金：ICT活用推進事業補助金

・「X線一般撮影装置の購入」

対 象：保健衛生学部放射線技術科学科の備品

目 的：医療現場の実情に合致した学内実習を行うための最新機器の購入

補助金：教育・研究装置及び教育基盤・研究設備補助金

⑤ 産学官連携の推進

平成27年8月5日に鈴鹿市、鈴鹿ロボケアセンター株式会社、本学との間で「鈴鹿市福祉ロボット推進事業に関する協定」を締結しました。この協定は、鈴鹿市で産学官連携のもと、福祉用ロボットを利用した産業推進や人材育成を目的とするものです。

本学では、白子キャンパス内にある鈴鹿ロボケアセンターと提携し、サイバーダイン株式会社が開発した、装着することで身体機能を改善・補助・拡張することができる世界初のサイボーグ型ロボット「ロボットスーツHAL」を利用した授業カリキュラムの導入などを予定しています。

また、鈴鹿市、日清オイリオグループ株式会社、本学との間で、鈴鹿市の市域内住民の健康寿命の延伸および地域社会の活性化を目的に、産学官連携協力の協定を締結しました。三者は今後、本協定に基づき、「健康寿命を伸ばそう！鈴鹿市！運動と食生活そして地域の連携！」をテーマとして、食生活（中鎖脂肪酸）による健康寿命延伸の可能性の追求や鈴鹿市の地場食材を活用した地域活性化など

に取り組みます。

⑥ その他

(A) 学納金の改訂

平成 28 年 4 月から大学院の授業料を減額することを決定しました。詳細は下記の通りです。

対象： 大学院 医療科学研究科（修士課程、博士後期課程）及び薬学研究科（4 年制博士課程）
の授業料

金額： （従来）800,000 円 → （変更後）680,000 円

(B) 特別養護老人ホーム「桜の森白子ホーム」の開設

本学は、平成 26 年に社会福祉法人サマス会を立ち上げ、平成 27 年 10 月 10 日に特別養護老人ホーム「桜の森白子ホーム」を白子キャンパスの隣地に開設しました。大学と隣接して特別養護老人ホームを設けるのは全国的にも珍しく、学生の実習やボランティア活動、卒業生の医療従事者としての活躍の場として期待されています。



(特別養護老人ホーム「桜の森白子ホーム」外観)

(C) 「鈴鹿医療科学大学創立 25 周年記念事業」に向けての準備

本学は、平成 3 年に開学し平成 28 年 4 月に 25 周年を迎えます。そこで、創立 25 周年記念行事実施プロジェクトを立ち上げて、記念行事等の立案、準備を開始しました。



(創立 25 周年記念ロゴマーク)

萌芽のイメージをあしらった 25 周年記念ロゴマークです。

スクールカラーである濃紺で縁取られた中の双葉は、一葉に知性、もう一葉は人間性を意味しています。

これは、本学教育理念「知性と人間性を兼ね備えた医療・福祉スペシャリストの育成」を表しており、創立 25 周年を迎えた現在でも成長中であるというメッセージでもあります。

(2) 施設設備に関すること

<建物>

- 千代崎キャンパスの施設では、実験実習棟エレベーター更新工事や研究厚生棟空調更新工事、食堂・学生ホール改修工事、防災設備更新工事を実施しました。
- 白子キャンパスでは、1号館・講堂の空調熱源改修工事や2号館 CBT 学習室及び研究室改修工事を実施しました。
- 千代崎、白子の両キャンパスにおいてバリアフリー整備工事を実施しました。

<教育研究用機器備品>

- 保健衛生学部放射線科学技術科の備品である X 線テレビシステム一式、X 線一般撮影装置やマルチメディア・LAN に関する ICT 機器など、大学全体で 172 百万円の機器備品を購入しました。

(3) 研究等について

- ① 平成 27 年度の受託・共同研究は、23 件 22,679 千円でした。
- ② 平成 27 年度の科学研究費補助金（間接経費を含む）は、52 件 54,639 千円（うち本学の教員が研究代表者となっている研究は 34 件 51,025 千円）でした。